 親と子の笑顔でつくる 家 庭 の 和	青少推 だより 毎月第1土曜日は 少年の日 毎月第1日曜日は 家庭の日	青少年の心を育てるキャンペーン 
---	--	---

は じ め に

群馬県青少年育成推進会議 会長 清水 章弘



令和5年度から3年間、2期目の県会長を勤めております清水章弘です。

令和6年度、青少年育成推進員としての活動ですが、コロナ禍明けの令和5年度に引き続き理事会及び通常総会を郡市理事、行政理事及び市町村会長の出席による通常開催が出来ました。また、各市町村の推進員の皆様をはじめ、関係機関、団体の皆様におきましても、総会及び地区の行事が通常通りの開催ができたとの報告を受けております。ただ、コロナ禍での行事、大会などの縮小運営の影響がまだ響いており、予算の縮小、参加規模の縮小、参加人数の減少など、多くの問題が残っているという話も耳にし、この任期での伝統の継続の重要性を改めて認識しております。また、これからの年度におきましても感染症の流行、天災など様々な出来事が発生することなどが考えられますが、地域の状況を鑑みながら、各地域の行事の運営を考えていきたいと思っております。

今、子どもを抱えている世帯では、雇用形態の変化で収入格差が広がり、貧困家庭の相対的増加という事態が起こっており、食事の取れない子どもが増えていると言われております。更に30年続いたデフレ状況が世界情勢の変化により日本国内でも急激にインフレ状況に変化してきており、より厳しい生活環境の子どもが多くなって来ていると考えられます。推進員の皆様においては、地域の情報をいち早く受け取れる立場にいらっしゃる事と思っておりますので、地域の問題として

早期発見をしていただき、その場合には関係機関への情報提供をして下さい、子ども達への悲劇を、生み出さない為の一步となっていただけますよう宜しくお願いいたします。

また、子ども達の学習環境に「生成AI」の活用が多くなって来ています、それが、子どもたちの成長にどのような影響を及ぼして行くのか、これからの大きな課題として出てきております。近年、青少年育成推進会議としては、インターネットを利用した「いじめ」「犯罪被害」「ネット依存」「ゲーム依存」を問題視し「おぜのかみさま」県民運動を推進してきています。そのうえで、新たな「生成AI」の課題も出てきておりますが、子どもたちだけでなく、私たち自身の生活に及ぼす影響を見据え、その情報を共有し課題を解決出来るように努力していきたいと思っております。このような社会情勢の中においても、推進員の皆様には毎月第一土曜日は「少年の日」、毎月第一日曜日は「家庭の日」の普及活動を進めると共に、子どもの貧困など「問題を抱えた子ども、若者に対する支援」を、各地域の実情にあった方法で各種支援団体などと連携し進めていきたいと思っております。

最後に令和8年度に群馬県青少年育成推進会議は60周年を迎えます、昭和41年11月に結成大会を開催し、60年の歳月が積み重ねられました。令和8年に60周年記念大会を開催することとなりましたので、推進員の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

令和6年度通常総会

5月14日ぐんま男女共同参画センターで開催されました。行政理事、団体理事、市町村会長の出席の下、以下の議案について協議されました。

議事については、

第1号議案 令和5年度事業報告

第2号議案 令和5年度決算、監査報告

第3号議案 規約の一部改正

第4号議案 令和6年度事業計画

第5号議案 令和6年度予算

が原案どおり承認されました。

会 長	清水 章弘（榛東村）
副会長	下田貴美子（富岡市）
	金子 弘司（みどり市）
参 与	小林 昭紀（沼田市）



第46回少年の主張群馬県大会

今年の少年の主張は県内162の中学校から38,316名の生徒が参加しました。

各学校の代表者による市町村大会、そして県内5か所で教育事務所単位のプロック大会が行われました。16名が最終選考の県大会に出場し、自身の経験を通じて学んだことなどを力強く発表しました。

審査の結果、次の方々が受賞されました。

■ 最優秀賞

● 言葉のヤングケアラー

榛東村立榛東中学校 3年 アジズ ハディア

■ 優秀賞

● 尊重する時代

藤岡市立東中学校 3年 竹市 摩耶

● 「わたしは大森深智」

前橋市立木瀬中学校 3年 大森 深智

● みんな違ってみんないい

前橋市立箱田中学校 3年 北村 こころ

● AIを活用する知恵：指示力の重要性

藤岡市立北中学校 2年 小峯 紗季

■ 努力賞

● 笑顔溢れる未来

群馬大学共同教育学部附属中学校

3年 恩田 康成

● 本当になくなるのか

館林市立第一中学校

3年 金子 權子

● 現代で生活するために

太田市北の杜学園

9年 鈴尾 凌功

● 残していくべきもの

中之条町立中之条中学校

3年 本多 楚笑

● 余計な一言

高崎市立群馬南中学校

3年 原田 桜輔

● 自分らしさを生かせる社会

川場村立川場中学校

3年 小菅 杏里

● さりげない一言

高山村立高山中学校

3年 笹川 愛稀

● 自分の色を纏って

太田市立宝泉中学校

3年 山田 あゆみ

● 『私は僕、僕は俺、俺は私』

富岡市立富岡中学校

2年 嶋村 瑚子

● 苦手を自信に変えて

沼田市立沼田西中学校

3年 星野 音葉

● 本当の思いやり

太田市立城東中学校

3年 内藤 仁南

少年の主張 最優秀賞

言葉のヤングケアラー

群馬県 榛東村立榛東中学校 三年 アジズ ハディア



病気の家族を看病している子、幼い兄弟の世話をしている子、日本語が苦手な家族に代わって通訳をしている子、皆さんの周りにこのような子供はいますか。

彼らは「ヤングケアラー」と呼ばれています。そしてその中には、「言葉のヤングケアラー」と呼ばれる子供たちがいます。これは、日本語が話せない、読み書きができない家族のために、言葉を支援する子供のことです。今日本ではそうした子供たちが増えています。そして、私も「言葉のヤングケアラー」の一人なのです。

私は日本で生まれ、日本で育ちました。皆さんと同じように日本の幼稚園、小学校に通い、そして中学校に入学しました。しかし、私の両親は外国出身で、日本語が分かりません。私の家庭では両親とはウルドゥー語という言葉で話し、兄弟とは日本語で話しています。両親は日本語ができないため、病院や買い物に通訳として一緒に行くことが多くあります。病院での通訳はとても大変です。専門的な言葉や難しい単語がたくさんあるため、調べながら通訳する必要があります。また、学校生活のことも先生とコミュニケーションをとることができません。学校での面談では、両親の代わりに日本語ができる兄が来ます。

私は春休みに外国にルーツを持つ子供たちが、みんなで絵本を作るプロジェクトにボランティアで参加しました。このプロジェクトは、日本語を学びながら一冊の絵本を完成させるもので、日本に来たばかりの子供たちもたくさんいました。彼らは日本語が分からず日本の学校に通っています。日本人の同級生に一日でも早く追いつこうと、一生懸命日本語を勉強しています。言葉が分からないことは本当に辛いです。彼らは、言葉が通じないことがもたらす孤独や困難を感じているのです。

皆さんも考えてみてください。周りの人がこっちを見て笑いながら何かを話しています。言葉を理解できないとそれが笑顔なのか、冷やかしののか全く分かりません。文字はすべて図形のように見え、情報は目で見てしか得ることができません。

しかし、言葉が分かってくれば、今度は通訳として家族を支えなければなりません。

ボランティアに参加したとき、私は普段家族の通訳をしている他の子供たちと会いました。その中にはすごく辛い思いをしている子供もいました。その子の家族が亡くなってしまったときに、病院から家族が亡くなったことを通訳するように言われたそうです。それを周りに伝える必要があったと聞いて、すごく辛い思いをしている子供たちが他にもたくさんいるのと感じました。皆さんはこのような子供たちが多くいるのを知っていますか。今日本には、外国にルーツを持つ子供たちが約十三万三〇〇〇人いると言われています。総務省の調査によると二〇六五年には五人に一人がそうした子供になると言われており、その数は今後も増加していくと予想されています。

私は自分自身が言葉のヤングケアラーとして両親の通訳を通してできた経験をシェアすることで、同じような状況にいる子供たちに勇気を与えることができていると考えています。自分は一人ではない、他にも同じ状況の人がいると、皆さんも目を向けてください。日々辛い思いをしながら、一生懸命に家族を支えているヤングケアラーの子供たちがたくさん存在しています。私たち一人一人がまず知って、そして周りに居るかもしれないこのような子供たちに寄り添う必要があります。例えば、優しい言葉をかけることで、少しでも気持ち楽になります。「最近どうしてるの?」「何か大変なことあった?」このような言葉でも、彼らの心を少しでも軽くすることができるのです。あなたの周りにもヤングケアラーとなり、苦しんでいる子供がいるかもしれません。彼らは自分達の成長や学びを犠牲にしている可能性があります。私たちが小さな一歩を踏み出すことで、その一歩が大きな変化を生むはずです。子供が子供らしい生活を送れるように。

社会環境実態調査結果概要

実施時期 令和6年7月15日～9月15日

調査対象及び店舗数

調査対象店舗・施設	調査店舗数	回答店舗数
コンビニエンスストア	761	655
ゲームセンター	26	24
カラオケボックス	36	33
インターネットカフェ・まんが喫茶	8	6
合 計	831	716

青少年育成環境モニターの方を中心に地域の店舗を訪問し、聞き取り調査をしていただきました。

■ コンビニエンスストア

青少年の深夜利用は、5割以上の店舗で「ある」と回答があり、その約9割が保護者同伴によるものでした。

万引き被害は、約3割の店舗が「ある」と回答し、そのうち青少年の占める割合は約1割でした。

イートインの設置は「ある」と回答した店舗は3割で、設置店では青少年の利用は7割、またWi-Fiの設置は5割でした。

酒類・たばこ販売時の年齢確認は、ほとんどの店舗で実施されていました。

■ ゲームセンター

青少年の深夜利用が「ある」と回答した店舗は、約1割弱でした。

酒類・たばこ販売時の年齢確認実施している店舗は8割でした。

■ インターネットカフェ

7割の店舗でWi-Fiが設置されており、フィルタリング利用の店舗はすべてで実施していました。

酒類・たばこ販売時の年齢確認は、全店舗で実施されていました。

■ カラオケボックス

酒類・たばこ販売時の年齢確認は、約9割の店舗で実施されていました。

青少年による飲酒、喫煙を目撃した場合の措置として、「注意する」と回答した店舗は約4割でしたが、全体の半数以上の店舗で「注意しても聞かない場合は警察に通報する」と回答がありました。

地区別青少年育成推進研修会

青少年育成推進員が地域リーダーとして活動できる知識や技能の向上に役立てることを目的に、地区別青少年育成推進研修会を開催しました。青少年育成コーディネーターの積極的な支援を受けながら、市町村青

少年育成推進員連絡協議会の代表が中心となって企画・運営にあたり、実施しました。

各地区の開催概要は、下記のとおりです。

令和6年度地区別青少年育成推進研修会の開催概要

ブロック	開催日	場 所	内 容
中部	11/9 (土)	群馬県 生涯学習センター	●講演 青少年への理解と支援～地域が担う役割～ 講師 榛名女子学園長 佐伯 由佳
西部	10/26 (土)	甘楽町文化会館	●講演 再犯防止教育 講師 前橋刑務所高崎拘置支所長 岡本 融
吾妻	9/13 (土)	中之条町 ツインプラザ	●地域の根ざした青少年育成活動の啓発について ～吾妻郡内の活動紹介と啓発用缶バッチの制作～（講話と実技） 講師 篠原 智彦
利根	10/19 (土)	沼田市役所 Waltzホール	●講演 生成AIとの付き合い方 講師 NPO法人群馬子どもセーフネット活動員会 森嶋 智史
東部	9/7 (土)	日清製粉ウエルナ 三の丸芸術ホール	●講演 気付いていますか？スマホが変える子供たちの生活 講師 NPO法人青少年メディア研究会代表 下田 太一

令和6年度「少年の日」「家庭の日」普及啓発作品コンクール

標語の部3,930点、絵画・ポスターの部415点の応募があり、その中から入賞作品62点、入選作品170点が選出されました。

入賞作品は12月13日～17日、県庁1階県民ホールに展示しました。

最優秀賞を受賞された方と作品を紹介します。

標語の部			最優秀賞の受賞者と作品
氏 名	学校名	学年	作 品
前原 萌々子	桐生市立神明小学校	4年	うちのごはん 笑顔と栄養 あふれてる
武田 優奈	館林市立第一中学校	2年	挑戦しよう 失敗恐れず 未来の自分へ
松島 優花	明照学園樹徳高等学校	2年	あいさつは 絆を深める 「愛」ことば

絵画・ポスターの部

最優秀賞の受賞者と作品



夏の虫とり

館林市立第七小学校2年
金谷 優久斗



家族みんなの うど畑
太田市立強戸小学校4年
五味 蘭



家族みんなお墓参り
太泉町立西小学校6年
山岸 巧



希望と勇気を届ける
ボランティア活動
伊勢崎市立第一中学校3年
落合 優月

青少年育成支援活動事業

青少年健全育成及び「少年の日」「家庭の日」の普及活動を進めるとともに、困難を有する子ども・若者への支援を目的に、次の地区で実施しました。今年度は14地区から申請がありました。

前橋市（プロペラ飛行機作り）
伊勢崎市（親子デイキャンプ）
榛東村（親子野菜作り体験教室）
吉岡町（健全育成標語募集、看板設置）
玉村町（親子デイキャンプ）
高崎市（おぜのかみさま安心安全見守り活動）
富岡市（健全育成標語募集、掲示）

沼田市（アウトドアキッズ）
太田市（おぜのかみさま声かけ運動）
館林市（友好都市との交流活動）
みどり市（おぜのかみさま啓発、バルーンアート作り）
板倉町（デイキャンプ）
明和町（絵画作品コンクール）
邑楽町（大声コンテスト）

地域の活動紹介 1 長野原町青少年育成推進員連絡協議会

地域・組織・活動の概要

長野原町は群馬県の北西部に位置し、南部には標高900～1300メートルの広大な浅間高原地帯を有するとともに、中部及び東部には吾妻川が東西方向に流れ、美しい溪谷を形成するとともに、ハッ場ダム周辺では、うるおい豊かな水辺空間にも恵まれたまちとなっております。

長野原町青少年育成推進員は、町内各地区から選出された8名で構成され、本町の青少年の健やかな成長を目指し活動に取り組んでいます。

長野原町青少年健全育成合同会議

毎年7月に青少年育成推進員に加え、教育長、学校長、こども園長、区長、育成会長、民生児童委員等をメンバーとした合同会議を開催しています。

警察署にもご協力いただき、青少年の健全育成に関わる講話をいただきながら、地域・学校・家庭の幅広いメンバーで情報交換を行っています。

また、今年度は学校運営協議会と地域学校協働活動推進員を加え、学校の課題を地域とともに解決してい

くためのグループワークを行いました。



夜間パトロール

夏休みのお盆前、青少年育成推進員が2班に分かれ、地域内のパトロールを行っています。町内各商業施設にも立ち寄り、青少年の来訪状況等を伺いながら地域の連帯感醸成にも寄与しております。



市町村会長等研修会

10月12日、昭和庁舎3階34会議室で市町村会長等研修会を行いました。

NPO法人群馬こどもセーフネット活動委員会の森嶋智史様をお招きし、生成AIのお話を伺いました。従来のAIとの違いについて、そしてその利便性について例を交えてお話いただきました。最後にこれを有効に活用することとは大切であるが、それと同時に、皆さんには子どもにリアルを教えることが大切であるとお話がありました。青少推の仕事の核心かもしれないと感じました。



群馬県青少年育成推進会議会長表彰

令和6年度群馬県青少年育成推進会議会長表彰は、15名の方が受賞されました。

11月30日に行われた群馬県青少年育成大会の中で表彰を行いました。当日は13名の受賞者が出席し、代表して藤岡市の早川一光様が清水会長から、表彰状と記念品を授与されました。

受賞者の皆様の10年以上に渡る青少年健全育成に対する熱心な活動へ労いの言葉を賜ります。



地域の活動紹介 2 大泉町青少年育成推進員連絡協議会

地域・組織・活動の概要

大泉町は、「鶴舞う形の群馬県」の首のあたりに位置します。町の形は、「かいじゅう」や「ゴジラ」に似ていると言われています。本町は、外国人の人口が、総人口の約20%を占めており、「日本のブラジル」と紹介されています。大泉町青少年育成推進員は、町内の30自治会から選出された人と、外国籍の青少年への支援を主とした人の43人で構成されています。本会のモットーは、「傾聴・寄り添う・見守る」の3点です。

三季運動パトロール

春・夏・冬季の夜間に推進員が青色回転灯を設置した広報車に乗り、町内施設等の見回りを行っています。

広報誌「かがみ=親はこどもの鑑=」発行

広報誌を年2回発行しています。町内全戸に配布をして、本会の活動について報告をしています。



大泉まつりのパトロールとクリーン作戦

毎年、大泉まつりの際に推進員が夜間パトロールをしながら、まつりのメインストリートや路地をきれいにしている活動をしています。



推進員定例会議の工夫

定例会議の際に「大人あそびプログラム」というワークショップを実施しています。内容は、子どもが楽しめるものを大人が体験するというもので、その後、各推進員が地区で実施をしています。



全国青少年育成県民会議連合会会長表彰

青少年指導者等顕彰

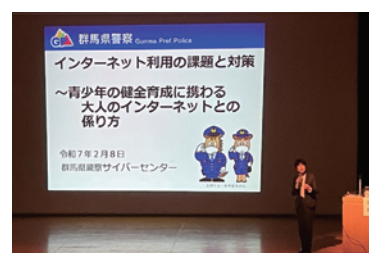
青少年指導者で、青少年の健全育成について顕著な活動をしたと認められる者を顕彰し、その活動を更に奨励するために表彰しています。

令和6年度は、県理事の青木講一さん（桐生市）が表彰されました。青木理事は平成8年に青少年育成推進員に委嘱され、令和2年度から県理事として、28年にわたり青少年の健全育成活動に尽力され、大きな功績をあげています。



青少推・青少年補導センター補導員合同研修会

2月8日、群馬県公社総合ビルで、200名余りの推進員・補導員の参加を得て、合同研修会が行われました。「少年の健全育成に携わる大人のインターネットとのかかわり方」題して、群馬県警察サイバーセンター企画・人材育成センター長補佐飯塚澄子氏よりお話を伺いました。



群馬県功労者表彰

この表彰制度は、昭和30年に発足し、地方自治、社会福祉、産業界の分野において功績のあった方を表彰しています。令和6年度は30名の方が受賞され、福祉の分野において、清水章弘会長（榛東村）が受賞されました。清水会長は平成16年に青少年育成推進員に委嘱され、平成29年から県副会長に、令和2年度から会長に就任し多岐にわたって活躍されています。



おぜのかみさま県民運動

おぜのかみさま県民運動は、セーフネット標語「おぜのかみさま」を活用し、青少年が安全・安心にインターネットを利用するための運動です。推進員の方々にも、学校、家庭、地域、職場などで、口コミをはじめとした各種の啓発活動を展開していただいています。

群馬県を代表する美しい景勝地である尾瀬（インターネット）も、使い方（木道）を誤ると危険におちいってしまうことを、ぐんまちゃんが、中学生をモチーフとしたオコジョの「コジョ」小学生をモチーフとしたヤマネの「マネ」と一緒に学びます。

群馬県全体で子どもたちをインターネットに潜む危険から守りましょう！

「おぜのかみさま」ぐんまちゃんの関連イラストが新しくなりました

ぐんまちゃん



オコジョのコジョ



ヤマネのマネ



セーフネット標語 「おぜのかみさま」

- お くない（写真）
- ぜ ったい会わない（ネットで知り合った者）
- の せない（個人情報）
- か きこまない（悪口など）
- み ない（有害サイト）
- さ がさない（出会い）
- ま もる（ルール）

「おぜのかみさま」は、子どもをネット犯罪から守る7つのルールです。